

2022年度感染リスクを軽減させた競技会運営に向けたガイダンス

川崎市陸上競技協会は、日本陸連、神奈川陸協の感染リスク軽減ガイダンスに準拠するとともに、川崎市やスポーツ機関の感染対策などを踏まえて競技会運営を行う。

競技者、チーム関係者（指導者、コーチ、部員等）、競技役員、競技運営関係者の方々は、次の事項を必ず事前にお読みいただき、2022年度も感染防止対策を徹底した上で参加されますようご理解・ご協力をお願いします。

なお、2022年度は、2020・2021年度の競技運営から得られた知見等に基づき、感染リスクが低いと判断した制限については、緩和することとした。

ただし、今後の感染状況などにより、この対応に変更が生じ、直前の延期・中止決定もありうることもご理解願います。

◎競技会開催の前提条件

- 1 緊急事態宣言の解除
 - ①移動制限の解除
 - ②不要不急の外出制限の解除
 - ③店舗営業自粛の解除
 - ④学校で部活動が認められている。（高校生、中学生）
- 2 競技会開催を神奈川県、川崎市が認めている。
神奈川警戒アラートが発動されていない、又は発動されたが1①～④の制限・自粛などが要請されていない。
- 3 緊急事態宣言が発出されていても、イベントの開催中止・自粛が要請されていない場合は、感染防止事項について川崎市と協議の上、感染リスク軽減策を講じる。
- 4 川崎市において新型コロナウイルス感染症の診療体制が整っている。緊急時の後方支援病院がある。
- 5 競技会に関わる全ての人（競技者、チーム関係者、競技役員、競技運営関係者）は、各自次のように健康状態を整えて競技会に臨む。
 - ①3密（密閉、密集、密接）を避けて行動する。
 - ②開催1週間前からの体調管理を徹底する。
 - ③手洗い、うがい、手指の消毒、洗顔を徹底する。
 - ④マスクを着用する。
 - ⑤競技会終了後、2週間以内に発熱等の症状があった場合には、医療機関を受診し、陽性の場合には必ず川崎市陸協に報告する。
- 6 川崎市陸協は、競技会要項に傷害保険の加入を明記するとともに、競技会に関わる全ての人への感染に対しては責任を負わない。

◎競技者、チーム関係者（指導者、コーチ、部員、マネージャー）の遵守事項

- 1 競技者・チーム関係者は、大会1週間前から検温を義務付け、指定の「感染症対策チェックリスト」（市陸協ホームページに掲載）に記入。（中学生は中体連、高校生は高体連から指定されたチェックシート・参加確認書で可）
中学生・高校生・大学生・クラブチーム（団体等という。）で、同一時刻に一緒に入場する場合は、団体等の代表者が全員分を確認の上、7番ゲート付近の競技役員に提出。
団体等であっても、個別に入場する場合は、個別に提出。未提出者は、競技会の出場や会場への入場不可。
- 2 体調管理の不確かな競技者・チーム関係者がいる場合は、その場で検温などを実施し、状況によっては競技会の出場や会場への入場を認めない。
- 3 競技の時以外（招集中・移動中・待機中）は、マスクを必ず着用。また、消毒液、ウェッ

トティッシュについても、各自又は各団体でできるだけ持参。

- 4 競技会の規模、目的に応じて参加資格、参加種目、競技方法などを制限する。
*2022年度は、参加資格、参加種目の制限は緩和。詳細は、大会要項で確認。
- 5 更衣室・シャワー室の使用は、短時間で、3密を避け、会話は厳禁。
- 6 ゴミはすべて自己責任で持ち帰る。
- 7 中長距離レース（3000m以上）では、場合により少人数でも2段スタートで実施。
- 8 フィールド種目の待機中はソーシャルディスタンスを確保。
- 9 投てき器具や滑り止め（炭酸マグネシウム）は、共用可。ただし、滑り止めは、競技者自身が容器に手を入れてつける形ではなく、競技役員や補助員から適量を受け取る方法、又は競技者の持ち込みも可。投てき器具についても、各自持ち込みを可。感染防止の観点から、投てき器具・滑り止めは持ち込みを推奨。
- 10 跳躍競技の助走練習、投てき練習は、競技役員が順番に競技者を呼び出す方法で実施。
- 11 フィールド種目の待機中、競技者同士の会話は極力避け、マスクを着用。
- 12 応援する場合は拍手のみとし、集団での応援は禁止。
- 13 競技者の付き添いは、禁止。
- 14 ウォーミングアップは、個別。室内走路も使用可。スタンド下のスペースは使用不可。
- 15 3密回避のために、競技者の付き添い者のウォームアップ場への入場は禁止。
- 16 競技場施設への入場方法は、3密を避け、競技役員の指示に従う。順番に並ぶ際は、ソーシャルディスタンスを確保し、会話も避ける。
- 17 競技会終了後、2週間以内に発熱等の症状があった場合には、医療機関を受診し、陽性の場合には必ず川崎市陸協に報告。
- 18 競技者、チーム関係者（指導者、コーチ、部員）以外の競技場施設への入場は不可。競技場施設入場口の掲示の注意に従う。
部員は、補助員担当の生徒、マネージャー。
出場選手の引率者はチーム関係者とし、同様の「感染症対策チェックリスト」を提出。
引率者は引率時以外の入場は不可。2022年度は、選手の保護者・家族に限り、「感染症対策チェックリスト」を提出して、7番ゲートから入場可。座席は、正面スタンドとする。
*チェックリストは、川崎市陸協ホームページの保護者・家族用に必要事項を記入し、入場時に再入場カード部分を切り取り、提出。再入場カードは、再入場時に呈示。
- 19 熱中症予防の観点から、屋外で人と2メートル以上を確保できる場合は、適宜マスクを外す。また、こまめに水分を補給。
- 20 参加料、プログラム代金（1部500円）はつり銭のないようにする。
参加料、アスリートビブスは正面3番1階中央フロアの大会本部で取り扱う。
プログラムは、7番ゲート階段上で取り扱う。
- 21 招集は、トラック、跳躍、投てき種目とも、プログラム記載の招集時間に各競技場所に集合。ただし、欠席する場合と特別アスリートビブス、腰ナンバーカードを使用する場合は、競技者係に連絡。
プロ訂正は事前に大会本部へ連絡。
腰ナンバーカードの使用は、原則として800m以上のオープンコースで行うレース。また、同じ競技会での再使用は厳禁。
- 22 レース後は、マスク着用していないので、会話をしないように注意し、動線に従って戻る。

◎競技役員・競技運営関係者の配慮事項

- 1 競技役員・競技運営関係者の配慮事項
 - ①競技役員・競技運営関係者は、大会1週間前から検温を義務付け、指定の「感染症対策チェックリスト」（市陸協ホームページに掲載）に記入し、3番入り口から入り、大会本部に提出。2日目は、本部で検温し、審判手帳にシールを貼る。
未提出者は、競技役員も競技場への入場も不可。
 - ②体調管理の不確かな競技役員等がいる場合は、その場で検温などを実施し、状況によっては競技会の運営や会場への入場を認めない。
- 2 競技役員受付は、ソーシャルディスタンスを確保するとともに、マスク、フェイスシールド等を着用し対応。
- 3 3密の回避対策として、ソーシャルディスタンスの確保できる使用人数制限と室内の換気確保
対象場所：諸室、招集所、更衣室、スタート待機所、フィールド待機所、スタンド
*1108室、1308室も使用。 *諸室の窓とドアを開放又は換気（ドアは全開、窓は半開）
- 4 飛沫感染防止用にマスク、眼鏡、サングラス、使い捨て手袋等を使用。
- 5 用器具、通信機器、審判用具、計測機器、情報端末その他共用物の使用後は、手洗い・手指の消毒・洗顔を実行。
- 6 競技日程は、可能な限り招集時刻を分散化（細分化）。
- 7 各競技場所では、競技者同士の距離を確保し、滞在時間を短くするよう工夫。
競技者係は、欠場する場合に報告をもらう。出場競技者に、特別ナンバーカード、腰ナンバーカードをセット。
- 8 スタート地点での待機中の3密を回避するように工夫。
- 9 競技者紹介を簡略化
- 10 レース後は、会話しないで水場へ直行する動線を確保し、手洗い・うがい・洗顔を促進。
- 11 競技中、フィニッシュ後、倒れこんだ競技者ケアのための防護体制として、眼鏡、サングラス、使い捨て手袋、フェイスシールド等で対応。眼鏡、サングラスはその都度消毒。
- 12 記録掲示場所を分散化
- 13 表彰状設置場所を分散化。
- 14 感染防止対策（マスク、3密、消毒、うがい、飲食時の会話など）を定期的アナウンス。
- 15 競技場施設への入場方法は、3密を避け、係員の指示に従う。順番に並ぶ際は、ソーシャルディスタンスを確保し、会話も極力避ける。
- 16 施設・競技場内の招集所、フィールド待機所、水場など必要箇所にある消毒液で適宜消毒。
- 17 更衣室・シャワールームの使用は、換気の徹底と3密を防ぐため同じ時間帯の少人数使用と、会話は厳禁。
- 18 発熱者が出た場合は、隔離室を確保。
- 19 競技会の規模、目的に応じて参加資格、参加種目、競技方法を制限する。
*2022年度は、参加資格、参加種目の制限を緩和。詳細は、大会要項を参照。
- 20 3密を回避できる範囲で1日の競技会の参加人数を設定することや実施する競技会の特性により感染防止策がとれる範囲で実施種目を決定する。
- 21 ウォーミングアップは、個別。競技者の付き添い者のウォームアップ場への入場は禁止。
- 22 中長距離レース（3000m以上）では、場合により2段スタートで実施。
- 23 弁当の仕分け・配付業務や現金を扱う時は、手袋を着用。また、食事は対面にならない、会話を控える、少人数を徹底。
- 24 トラック種目の配慮事項
 - ①スタート地点へはできるだけ2～3組ずつ誘導。

- ②スタート前待機場所の余裕。
- ③招集中・移動中・待機中はマスクを着用するよう指示。
- ④給水関係（3000m以上）の競技役員・補助員は、競技開始前に手指を消毒し、マスク・手袋・フェイスシールド等を着用。給水にスポンジは使用不可。
- ⑤腰ナンバーカードの使用は、原則として800m以上のオープンコースで行うレース。また、同じ競技会での再使用は厳禁。

□25 フィールド種目の配慮事項

- ①待機場所の競技者同士のソーシャルディスタンスを確保し、集合した出場競技者を確認。
- ②投てき器具や滑り止め（炭酸マグネシウム）は、共用可。ただし、滑り止めは、競技者自身が容器に手を入れてつける形ではなく、競技役員や補助員から適量を受け取る方法、又は競技者の持ち込みも可。投てき器具についても、各自持ち込みを可。感染防止の観点から、投てき器具・滑り止めは持ち込みを推奨。
- ③跳躍競技の助走練習、投てき練習は、競技役員が順番に競技者を呼び出す方法で実施。
- ④待機中はマスクを着用し、競技者同士の会話は極力避ける。
- ⑤競技役員・補助員の手旗・パソコン・計測器などの共用はできるだけ避けるが、共用する場合は、使用後、手洗い・手指の消毒と必要に応じて機器の消毒。
- ⑥競技に使用した用器具類は、競技終了後、必要に応じて消毒。
- ⑦コーチが競技者に話をする場合は、マスク着用の上、ソーシャルディスタンスを確保。

□26 競技会終了後の配慮事項

- ①施設管理者への確認事項
使用したすべての箇所・競技用機材を必要に応じて消毒
- ②参加者への周知事項と川崎市陸協の対応事項
・競技会終了後、2週間以内に発熱等の症状があった場合には、医療機関を受診し、陽性の場合は必ず川崎市陸協に報告。
- ③競技会終了後、川崎市陸協は、2週間以内に感染の報告を受けた場合、感染情報を入手し、保健所に連絡し、指示に従い対応。
- ④川崎市陸協は、神奈川陸協に報告。

□27 観客への配慮事項

- ① 競技者、チーム関係者（指導者、コーチ、部員）、競技役員、競技運営関係者以外の方の競技場施設への入場は不可。引率者の場合は引率時以外の入場は不可。

2022年度は、選手の保護者・家族に限り、「感染症対策チェックリスト」を提出して、7番ゲートから入場可。座席は、正面スタンドとする。

*チェックリストは、川崎市陸協ホームページの保護者・家族用に必要事項を記入し、入場時に再入場カード部分を切り取り、提出。再入場カードは、再入場時に呈示。

- ②競技場施設入場口に貼紙等で注意を掲示。

□28 競技役員委嘱の配慮事項

- ①高齢の方や基礎疾患を持っている方には、感染した場合のリスクが高いことを承知していただき、了解されたうえで参加されることを周知。
- ②体調管理上、少しでも不安が生じた場合は、無理して参加することがないように周知。

□29 熱中症予防の観点から、屋外で人と2メートル以上を確保できる場合は、マスクを適宜外す。また、こまめに水分を補給。